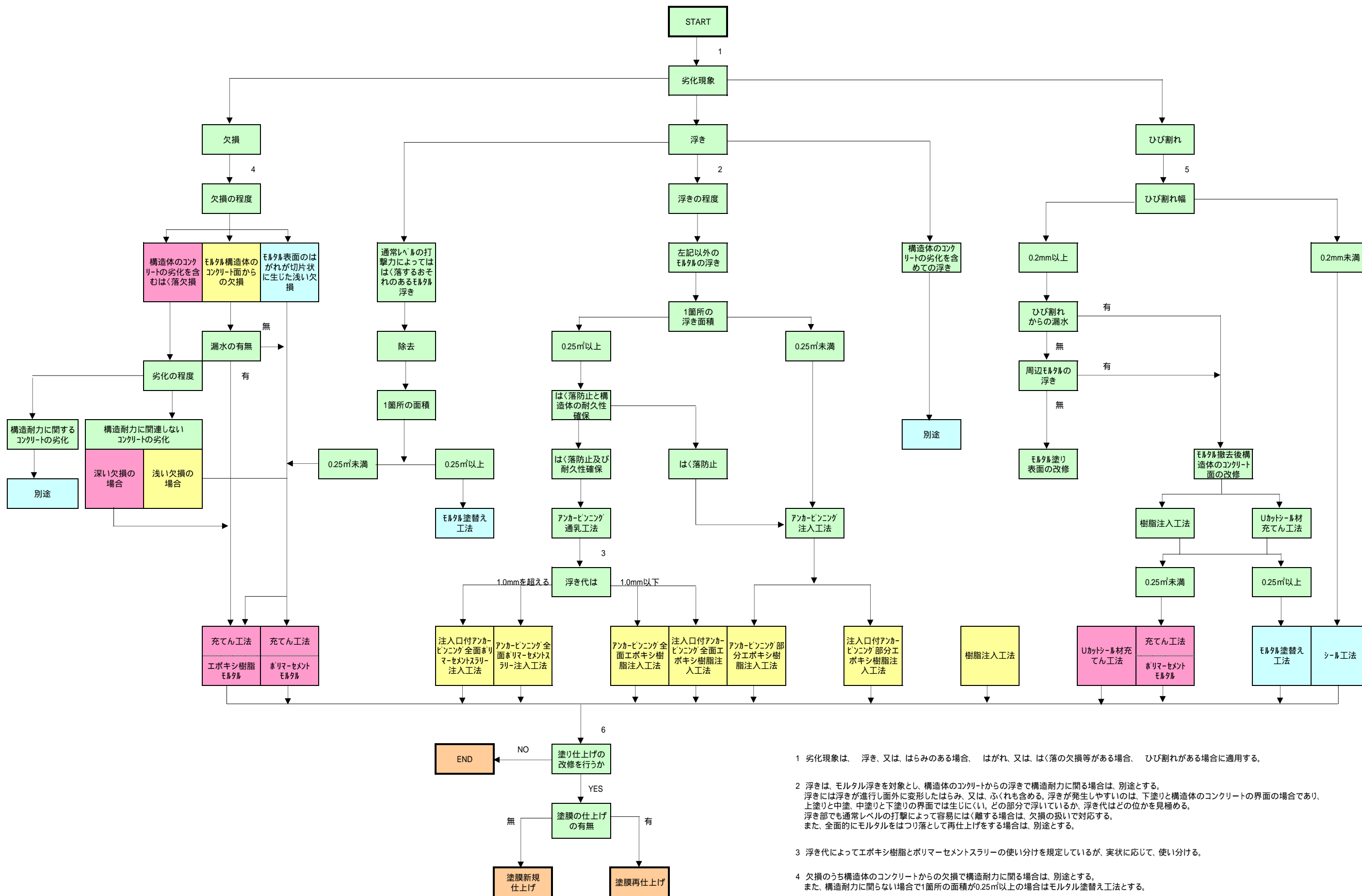


モルタル塗り仕上げ外壁の改修工法選定フロー



- 劣化現象は、浮き、又は、はらみのある場合、はがれ、又は、はく落の欠損等がある場合、ひび割れがある場合に適用する。
- 浮きは、モルタル浮きを対象とし、構造体のコンクリートからの浮きで構造耐力に関する場合は、別途とする。浮きには浮きが進捗し面外に変形したはらみ、又は、ふくれも含める。浮きが発生しやすいのは、下塗りと構造体のコンクリートの界面の場合であり、上塗りと中塗り、中塗りと下塗りの界面では生じにくい。どの部分で浮いているか、浮き代はどの位かを見極める。浮き部でも通常レベルの打撃力によって容易にはく離する場合は、欠損の扱いに対応する。また、全面的にモルタルをはり落として再仕上げをする場合は、別途とする。
- 浮き代によってエポキシ樹脂とポリマーセメントスラリーの使い分けを規定しているが、実状に応じて、使い分ける。
- 欠損のうち構造体のコンクリートからの欠損で構造耐力に関する場合は、別途とする。また、構造耐力に関らない場合で1箇所面積が0.25㎡以上の場合はモルタル塗り替え工法とする。
- ひび割れ幅及びひび割れからの漏水の有無について見極める。周辺モルタルの浮きのない場合は、モルタル塗り表面の改修を行う。
- モルタル表面の塗膜の改修については、美観上の見地から健全部を含めて全面的に実施するのがよい。いずれにしても、主たる改修に含めて実施の程度を検討する。